レンジフードのお掃除方法

ホームガス課　森田　敏弘

レンジフードは毎日使う場所。

年末の大掃除にと汚れをためている方もいますが、ふだんのパパッと掃除で驚くほど大掃除がラクになる場所です！
「パパッと」と「きちんと」の2通りのお掃除方法をお伝えします♪

レンジフードは、すぐに汚れてしまう部分です。

特に油は時間がたてばたつほど汚れが落ちにくくなります。毎日、手の届く範囲を簡単にお掃除しましょう。

①溝の部分や油がひどい場所をキッチンペーパーなどで拭きとります。

②お掃除用の布やマイクロファイバーをお湯で絞って、レンジの表面や溝の部分を拭きます。少し熱めの温度のお湯で「ホットタオル」を作れば、油の汚れはぐんと落ちやすくなりますよ！

③こちらで完了です。

ササッと
キレイ★

レンジフードをきちんと掃除するには、準備が大切！

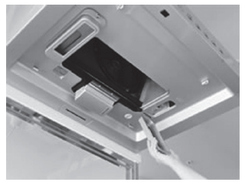
今回はレンジフードファンをはずしてお掃除する方法を、準備段階からしっかりお伝えします。

①お掃除で使う道具を用意します。
また、あらかじめ電源プラグをコンセントから抜いたり、ブレーカーを切っておきましょう。

【準備するグッズ】

- ●ドライバー(部品を外すのに必要な場合)
- ●いらない歯ブラシ
- ●取扱説明書
- ●スポンジ
- ●養生用の新聞紙またはシート
- ●大きなビニール袋
- ●洗剤
- ●段ボール箱
- ●ボロ布
- ●ゴム手袋

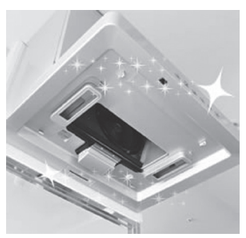
②外せる部分を、外します。取扱説明書を参考にして間違えないようにしてください。部品で手を切らないよう厚手のゴム手袋を着用しましょう。



③外した部品を大きな容器に準備した「ホット重曹水」に漬け込みます。

④スポンジで汚れを落としていきます。また、細かい部分や落ちない汚れは歯ブラシやヘラなどでこそげ落としましょう。水洗いをし、乾いた布で拭きあげます。

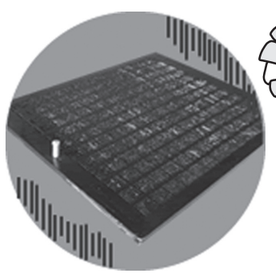
⑤部品を元の状態に取り付けて、完成です。これで気持ちよく使うことができます。



しっかり
キレイ★

レンジフードのお掃除のツボ

油汚れは「酸性汚れ」。油が酸化するとレンジフードの塗装面をはがす原因になります。そこで油が付きやすいレンジフードはこまめなお掃除が必要です。調理頻度にもよりますが、「きちんと掃除」は年に1回ではなく、3～6ヵ月に1回の頻度がおすすめです。



橋本のつぶやき

稲本さんの「楽しい老犬生活シリーズ　パート!!」は考えさせられますね。いつの世も人間、動物関係なく年老いていくことは当然のことではありますが、できればいつまでも若く健康にいたいものです。我が家の犬はブラッシングをするのが大嫌いで、ブラシを見ては、ヴーワー、うなり、硬いブラシを噛みにきておりました。その為ブラシで歯茎を出血させてしまうことが何度もありました。歯茎から血を出した犬なんて、もう恐怖の犬でしかないですね。稲本さんの家のワンちゃんはブラッシングが好きなのですね～！　うらやましい。

レンジフードのお掃除は特に油汚れが酷くなりやすく、また面倒なため放置しがちです。市販の使い捨てフィルターを使用し、交換していれば結構きれいだろうと勝手に思っている私です。しかしながら、普段レンジフードの内側を触るとベッタリと油汚れがあることがハッキリとわかります。フィルターも何も取り付けられないところなので、当たり前といえば当たり前なのですが、揚げ物など冬控えていても結構汚れるものだなと悲しくなります…。誰か一瞬できれいにしてくれませんかねぇ。結局掃除しようとしていない。(笑)

楽しい老犬生活 パートII

総務課　稲本　たか子

アポロ新聞4月号で年老いた犬が少しでも長く、元気に生活できるようにボディの変化のチェック、行動の変化のチェックをご紹介しました。今回は、ボディケアの行い方をご紹介したいと思います。

体をくまなく触ることは、老いた体にこそ必要です

「体を触られるのをイヤがるから、ボディケアするのは、苦手」という声も聞きますが、老いてくるほど大切になってくるお世話がボディケアです。体の各部分を清潔にして健康を保つという効用だけでなく、温かい手で体に触ってあげるということそのものが、とてもいいことなのです。まず、体に触れられることに慣らしましょう。

リラックスした気分の時に背中や、首元など刺激が少ない所から触っていきます。体に触れられても我慢できるようになることは、介護や看護が必要になった時に必ず役立ちます。

又、ボディケアで、健康をチェックすることができます。腰を触ると痛そうにする、口の中にできものができた、お尻にしこりがある、などの異常に気付くことが病気の早期発見につながります。

それに、たとえばブラッシングするだけでも、皮膚の汚れを落すと同時に血行をよくし、筋肉をほぐす効果があり、老化に伴って落ちている代謝をあげられます。

さらに、いえるのは、ボディケアで愛犬の心も癒せるという事です。老いた体をいたわり慈しむ気持ちは、手のぬくもりを通して伝わり、愛犬に活力を与えます。

ブラッシング

毛の美しさを保つ、皮膚を清潔にする、血行がよくなるというメリットがあるブラッシングは、力を入れず行うのがポイント。ブラッシングをしながら全身をよくなでてしこりや、腫れなどがないかのボディチェックもあわせて行います。

目のまわりのケア

目のまわりについた汚れや、目ヤニをほうっておくと、感染症などのトラブルが起きやすくなります。ウエットテッシュや濡らしたコットンなどで眼球をこすらないよう気をつけて拭き取ります。

耳掃除

耳の中には、常在菌という細菌がいて、そこにエサとなる耳あかなどがたまると、異常繁殖して耳のトラブルを引き起こします。湿気がこもりやすい垂れ耳のコは、気をつけましょう。

歯磨き

歯垢や歯石は、細菌の巣窟。ほうっておくと歯肉炎や、歯周炎の原因になります。できれば毎食後に歯磨きをする習慣をつけ、これらのリスクを回避しましょう。

ブラッシング、目のまわりのケアは、よくしてあげているのですが、他のケアは、ほとんどした事がありませんでした。かなり、反省…

ウチのコ達は、ブラッシングが大好き。もう、まとわりついて離れません。そして、時々触ってあげるとおできを発見することもあります。やはり、触るということでスキンシップと病気の早期発見が出来るのですね。そして、ブラッシングが終わるとよく寝てくれます。そして、その寝顔に癒されるのでした。

≪参考資料≫老犬生活　完全ガイド　若山正之